

協賛各社を訪問し、日本の大学生との交流会を持ちました。さらに日本の社会と文化に触れるため、関西への旅に出かけました。

去年に続いて、本教授会議が日本経済新聞社、中国教育国際交流協会と協力して、二回目のコンテストを無事に開催することができたのは、偏に会員各位の献身的なご協力の賜物であり感謝しています。(華南ブロック中山大学・廖赤陽、華東ブロック華東師範大学・王曙光、西北ブロック西安大学・王柯、東北ブロック吉林大学・沈国威、北京ブロック首都経貿大学・張紀濤、華中ブロック武漢大学・趙軍、華北ブロック天津外語大・杜進、西南ブロック四川大学・王智新) 各審査員におかれましては、貴重な時間を割いていただき、ありがとうございました。

昭恵夫人のご講演も日本を遠く離れた朱建栄代表の努力によって実現したものであります。それから、本戦の観衆動員や当日の手配などにおいて、華人教授会議の組織力が遺憾なく発揮されました。本コンテストは、日本だけでなく、中国国内からもかなり重視され、各地での予選は当地のマスメディアによって逐一報道され、本選についてはCCTV、中国新聞社などが報道して下さいました。

第三回開催時期等については、8月に北京オリンピックがあるため、三者協議によって2008年の7月14日に決まりました。同じく東京の日本経済新聞社本部のホールにて開催します。引き続き、皆様のご協力とご指導をお願いする次第であります。



公式サイト：<http://www.nikkei.co.jp/cjssp/>

